

銅相場トレンド予測はベアで一致

為替トレンドは円安が優勢 第48回COMC声明

【第48回COMC声明】

【概況】

- ① 電気銅 建値予測 600～670円
② 銅相場のトレンド
ベア (ブル強気 0 ベア弱気 5 ニュートラル 0)
③ LME銅セツル予測 4580～5160ドル
④ 為替トレンド予測
円安 (円高 2 安 3 変わらず 0)
⑤ ドル円予測(TTM) 118～123円
- 八月前半は 七月のインド製造業PMIは五二・七に上昇、六カ月ぶり高水準、予想は五一・〇、七月のユーロ圏製造業PMI改定値は五二・四に上方修正、六月の米個人消費は前

月比〇・二％増加、所得は〇・四％増加などのプラス材料もあったが、民間(HSBC)発表の七月中国製造業PMI改定値は四七・八に下方修正。四七・八は二年ぶりの低水準だったこと。中国人民銀行調査統計局長、中国経済への下方圧力は年後半も続くこと認識示したことを嫌気しLME銅相場はDOWN、八月十五日時点で五、一五六ドル(セツル)と月初価格より六四ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、国家隊が二兆三、〇〇〇億円の資金を投入したとの観測を受けて反発したこと、人民銀は二十六日に短期流動性オペ(SLO)を通じて一、四〇〇億元(約二兆六、〇〇〇億円)を市場に供給したと発表。前日の政策金利や預金準備率の引き下げに続いて施策を打ち出したことが金融市場の安定を促すなどのプラス材料もあったが、中国の三日連続利下げからの景気後退懸念やWTI原油が一時四〇ドル割れを興したことからDOWN、九月二日現在、後半スタート価格から六・一ドルDOWNの五、〇九五ドル。銅建値六七万円のスタートとなった。

【所感】

今後の動向であるが、今回のCOMCにおいては、

A 中国の株価、景気対策

B 米FRBによる利上げ時期

以上の意見が非常によく聞かれた。

Aについては

先月より更に状況は悪化 「当局が死守し

たいと考えている三、五〇〇～三、六〇〇を割り込むかどうか注目」との提言をはるかに下回る三、一五〇近辺を推移。

景気対策はおろか有効な金融政策さえ打つことができないのが中国当局の現状である。

抗日戦勝記念日明けには何かしらの対策がでるのでは？との期待も空しく、G20でも中国景気後退懸念はでるものの具体策はでず、中国の楼繼偉財政相が、中国経済の先行きについて「今後五年間は構造転換の陣痛期になる。苦難の調整過程になるだろう」との見解を示すなど先行きはさらに不透明感が台頭。ただここまですれば更なる下落リスクはあるもののそこからの回復のための対策に期待したいとの見解。

Bについては

委員会内でも九月説、来年説に意見が割れた。

米労働省が四日発表した八月の雇用統計によると、失業率は五・一％と七年半ぶりの水準まで改善、賃金上昇も加速し、米連邦準備理事会(FRB)が今月利上げに踏み切る可能性を残したのが九月派の意見。

来年説派の意見は、当然 米国の利上げによる世界恐慌のリスクの台頭である。

これらを踏まえ、当委員会としては、ベアの見通しを立てた。

上値は中国当局が友好な景気対策について言及し、米FRBが九月利上げを先送りした場合五、三〇〇ドル近辺。

いずれかの場合は五、一〇〇ドル付近。

両条件が揃わなかった場合、現状からもう一段安の四、八〇〇ドル付近まで下落するとの予想。

以上

議長 橋本健一郎(橋本アルミ) 大阪
委員 荒井 義明(荒井明商店) 東京

棚町 祐次(IRユニバース) 東京

勅使河原孝行(デン商店) 愛知

角井聡一郎(角井地銅商店) 京都

山本 健次(GSジャパン)